

幼保小の架け橋期を支える スタートカリキュラム、 中学年への接続

スタートカリキュラムの紙面構成

幼保での学びや育ちを生かし、
主体的に学べる構成です

左ページの絵を見て関心をもち、右ページの写真を手がかりに活動を進める見開きの紙面構成です。絵を見て発見するという幼保で馴染み深い活動から始めることで、子どもがそれまで育んできた資質・能力を踏まえ、主体的に活動に取り組むことができます。



幼稚園・保育所での学びや育ち

左ページ 絵を見て関心をもつ

どんな ことが できるかな。



小学校での学びや生活

右ページ 写真を手がかりに活動



▼上巻10ページ

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

家庭とイメージを共有でき、
円滑な連携に役立ちます

「幼稚園教育要領」等示された、いわゆる「10の姿」を具体的な場面のイラストで示すとともに、「保護者の皆様へ」の中で、そのねらいを解説しています。幼保での成長のイメージを保護者と共有することで、家庭との連携に活用することができます。

・「協同性」の例



保護者の皆様へ

16・17ページに掲載している児童育まれたさまざまな力が、小学校面で生かされている例を示して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を解説しています。16ページ



▲上巻16ページ

中学年への接続

身につけた資質・能力を、
中学年へしっかりとつなげます

▼下巻96ページ



資質・能力を振り返る

中学年の学習へ

どの単元も、それぞれの活動の中で、体験と言葉を通した学びを充実させることによって、中学年につながる資質・能力が育まれることを大切にしています。そのため、下巻末には、これまでに身につけた資質・能力を振り返り、3年生の学習をイメージしながら、進級への期待が高まる場を設けました。

3年生の学しゅうをのぞいてみよう。



ICT機器の利活用、QRコードコンテンツ、情報活用能力の育成

ICT機器の利活用

対話的な学びを活性化させる活用を提案しています

ICT機器を効果的に活用することで、コミュニケーションが促され、対話的な学びが活性化します。さまざまな対象とのコミュニケーションを促すという観点から、ICT機器の活用例を、意図的・計画的に位置づけています。

① 学習対象とのコミュニケーション



▲上巻35ページ
写真を使って日々の記録を積み重ねることで、気づきにつなげる。

② 友達とのコミュニケーション



▲下巻42ページ
飼育する中で気づいたことを、動画を活用して、友達に伝える。

③ 学校外の方々とのコミュニケーション



▲下巻91ページ
離れた場所にいる人に、自分の成長について聞き取りを行う。

④ 自分自身とのコミュニケーション



▲上巻94ページ
タブレットに保存されてきた記録を見返し、単元の全体を振り返る。

生活科の学びに資する、ICT機器利活用のために

◆ 発達段階を考慮した活用例の提示

子どもたちの発達段階を考慮し、上巻では取り入れやすいシンプルな例を中心に、下巻では目的に応じた多様な活用例を提示しています。

上巻 シンプルな活用例

- 写真での記録
- 写真を見せ合う
- 記録を見返す

下巻 多様な活用例

- 発表・プレゼン
- 動画の活用
- オンライン通話

◆ 活用にあたっての注意点を掲載

心身の健康や、ルール・マナーを守りながら、生活科らしい学びを深められるよう、タブレット等を活用する際の注意点を掲載しています。



▲上巻2ページ



▲上巻別冊9ページ
下巻別冊7ページ

QRコードコンテンツ

子どもたちの安全に関わる情報を動画やアニメーションでわかりやすく



活動の中で、必ず子どもたちに確認してほしい安全に関わる情報を、アニメーションや動画で収録しています。関連する活動がある教科書のページに、QRコードを繰り返し位置づけており、生活上必要な習慣等を確実に身につけられるように配慮しています。



横断歩道 / 曲がり角 / 狭い道 / 工事をしているところ / 踏切 / 雨の日

手洗い / マスクの付け方

はさみの使い方 / きりの使い方 / 段ボールカッターの使い方 / カッターナイフの使い方

アシナガバチ / スズメバチ / セアカゴケグモ / チャドクガの幼虫 / ヒアリ / マダニ / マムシ / ムカデ / ぎんなん / ウルシ / ヨウシュヤマゴボウ

教科共通QRコードコンテンツ

みんなで かんがえたい たいせつな こと

誰もが安心、安全に学校生活を送ることができるよう、教科を横断して大切にしたい情報を、各分野における専門家の監修の下に制作し、QRコードコンテンツに収録しています。



◆ コンテンツ内容

- タブレットなどを使うときは
- 感染症対策
- 防災
- SDGs
- 学校で使う日本語



▲タブレット等の使用後に効果的な整理体操を収録しています。首や肩をほぐすだけでなく、ドライアイ防止にもつながります。



▲防災に関する情報をアニメーションでわかりやすく提示。命を守るために必ず実行してほしいことをまとめています。

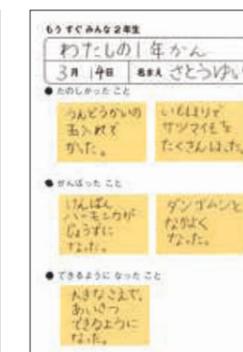
情報活用能力

思考ツール等の活用例を提示 情報をまとめる力を育みます

付箋を使った情報整理のしかたなど、低学年の子どもでも無理なく活用できる思考ツールの活用例を提示しています。思考を明確にしたり、協働的に学んだりするときに役立ちます。



▲下巻88ページ



▲上巻105ページ

家庭・地域との連携、SDGsとの関わり、伝統・文化の扱い

学校と家庭との連携

「保護者の皆様へ」を新設教科書が情報共有を支えます

体験・活動を安全で充実したものとするためには、家庭との連携が重要となります。各単元の導入と、特に家庭の協力が必要な場面に「保護者の皆様へ」を設けました。

学習のねらいを保護者と共有

単元扉では、その単元の学習のねらいを示しています。子どもたちが身につけたい力を共有し、活動への理解を促します。

保護者の皆様へ

この学習では、児童が自分で植物を育てることで、植物が生命をもっていることに気づき、植物に親しみをもって、大切にしたいと思うことをねらいとしています。

▲上巻31ページ「さいてほしいな わたしのはな」

具体的な協力の呼びかけ

保護者の協力が必要となる場面では、その内容を具体的に示しています。家庭に協力を呼びかける際の参考として活用できます。

授業でおもちゃ作りをするときは、家庭に材料集めのお願いをすることがあります。そのときは、可能な範囲でご協力ください。

▲下巻46ページ「あそんで作ってくふうして」

地域との連携

地域の人との交流で、より豊かな学びを実現

子どもたちが自分の地域に愛着をもつことができるよう、地域の方々との交流の例をさまざまな形で繰り返し提示しています。具体的な交流のイメージをもつことで、学習意欲がさらに高まります。



▲上巻26ページ
通学路を探検する際に、地域社会で子どもを見守る人々に気づく。



▲下巻19ページ、31ページ
春のまち探検で出会った農家の方に、栽培単元で野菜の育て方について質問する。



伝統・文化の扱い

日本に伝わる多彩な伝統・文化を紹介します

日本各地の伝統・文化や季節の行事、伝承遊びなどを随所で紹介しています。さまざまな地域の例を取り上げ、児童が身近な伝統・文化に目を向けるきっかけとしています。



▲上巻55ページ
夏休みの時期にあわせ、全国各地の行事や伝統・文化を紹介している。



▲下巻12ページ
季節の行事や各地の伝統・文化を、四季を通して紹介している。

SDGsとの関わり

低学年でも無理なく取り組めるSDGs教材を掲載

SDGsの17の目標と関連する単元に、教材を掲載しています。低学年の子どもでも取り組みやすい内容を扱うことで、SDGsについて考えるきっかけとなります。当該の教材には、国連に申請したうえで、公式のカラーホイールマークを付しています。

SDGs12 つくる責任 つかう責任

生活廃材で遊ぶ単元では、素材に目を向けることで、学校や生活の中で、環境について考えることを呼びかけています。



▲下巻55ページ「みもの回りのものを大切に つかおう」

SDGs15 陸の豊かさを守ろう

アメリカザリガニやアカミミガメなどの外来生物が他の生物に与える影響や、見つけたときの注意点をまとめています。



▲下巻別冊27ページ「生きものをかうときに考えよう」

The content of this publication has not been approved by the United Nations and does not reflect the views of the United Nations or its officials or Member States.

全ての子どもが学びやすい教科書を目ざして、 専門家の校閲を受けています

特別支援教育への配慮

特別支援教育の観点から氏間和仁先生（広島大学大学院准教授）、学習のユニバーサルデザインの観点から小貫悟先生（明星大学教授）の校閲を受け、全ての子どもが理解しやすいものとなるよう、読みやすさ、わかりやすさに十分配慮しました。

紙面の構造を統一し、
理解しやすく

小単元名、活動のめあて、「学び方のヒント」「ふりかえろう」などの学習要素をパターン化して配置しているので、理解しやすい構造となっています。

線や影をつけることで、
写真の境界を見やすく



▲上巻45ページ

文字の下に影をつけて、
読みやすく



▲上巻6ページ

活動のめあて

小単元名
学び方の
ヒント



▲上巻34ページ

ふりかえろう

カラーユニバーサルデザイン

カラーユニバーサルデザインの観点から、市原恭代先生（工学院大学准教授、CUDO 理事）の校閲を受け、色覚の多様性に配慮し、誰もが明確に識別できる配色を採用しています。

多数派の色覚の
見え方



この配色では、色覚特性のある子どもは、
キャップが見分けづらくなります。

色覚特性のある人
の見え方



多数派の色覚の
見え方



同じ図版のキャップを白くして、注意すべき
点をはっきり示すようにしました。

色覚特性のある人
の見え方



▲下巻別冊24ページ

人権・多様性への配慮

人権教育の観点から出口真紀子先生（上智大学教授）、外国人児童への教育の観点から浜田麻里先生（京都教育大学教授）の校閲を受け、教科書に登場する人物の性別・人種・身体的特徴に偏りがないように配慮するとともに、幼児や高齢者、外国の人、障害のある人など、多様な人々が登場する紙面を心がけました。



▲上巻50ページ



▲上巻48ページ



▲下巻60ページ

教科共通QRコードコンテンツ
がっこうでつかうにほんご

多様なルーツをもつ子どもたちが、学校生活や学習活動にスムーズに参加できるように、学校でよく使うフレーズを音声付きで収録しています。



英語・ポルトガル語・中国語・フィリピン語・
スペイン語・ベトナム語に対応

防災・安全教育への配慮

防災・安全教育の観点から木村玲欧先生（兵庫県立大学教授）の校閲を受け、防災を含む安全教育と関連した資料を豊富に掲載しました。生活科の中でも意識を高められるよう、配慮しています。

特に、交通安全に対する注意が必要な箇所には、「気をつけよう」のコーナーを設けるとともに、QRコード資料を用意し、確実に注意を向けられるようにしました。

ひなんするときのやくそく



▲上下巻別冊3ページ



▲下巻17ページ「気をつけよう」



▲QRコードコンテンツ「横断歩道」

書体への配慮

基本となる書体に、文字が判別しやすく、文章が読みやすいUD（ユニバーサルデザイン）書体を使用しています。また、手書き文字については、筆順・画数・とめ・はね・はらいに配慮しています。



多様な家庭環境への配慮

教科書に登場する子どもたちの家族構成を多様に示すことで、さまざまな家庭環境に十分配慮しています。また、学習活動は、家庭環境の違いによらず、取り組めるよう配慮しました。



▲下巻90ページ
自分の成長を調べる活動では、家の人だけではなく、保育士などの身の回りの人に取材する例も提示。